CAMERA BIKE WATCH CAR LIFE

SPECIAL ISSUE

VINTAGE LIFE

［ヴィンテージライフ］
NEKO MOOK 2463

Vol. 18
AUTUMN 2016

イタリアン・ヴィンテージの達人

FIAT 500 L / FERVES RANGER / ALFA ROMEO CARABO/ALFA ROMEO 8C 2900B LUNGO / FIAT PANDA 4×4 / ROLEX COSMOGRAPH DAYTONA PAULNEWMAN
PATEL PHILIPPE CALATRAVA / HEUER MONACO / BSA S28 / BOTO GUZZI AIRONE / RILEY GAMECOCK SPECIAL / DUCATI 250 SCRAMBLER
VEROCETTE MOV / PORSCHE 911 CARRERA RS / COLNAGO MEXICO / RIVA ARISTON / SHADOW DN8 / LOLA T70 MK3B

From Switzerland

ヴィンテージ・ウォッチ界のキング

DAVIDE PARMEGIANI

photo : Soichi Kageyama text : Yuko Noguchi

— SHOP —

address:VIA NASSA 40, 6900 LUGANO (SWISS) tel:0041-91-9225233 http://www.davideparmegiani.ch 営業日:火曜～土曜 営業時間:9:30-18:00

ルガーノの町のショッピングストリートにたたずむ、ダヴィデの店DAVIDE PARMEGIANI。

高級車が次々と走り抜ける、ルガーノ湖畔のメインストリート。ちょうど奥の小道に店がある。

中には数千万円はするようなヴィンテージウォッチが、店頭では普通にディスプレイされている。

ダヴィデの店はルガーノ湖のすぐそば。この湖はスイスとイタリアにかけ、アルプス山間部に広がる湖。空気がとにかく美味しい!

01.

スイス、アルプス山間部のお店

時計好きの人は、知らず知らずのうちに目の前にいる人の袖口に目が行くものだ。ここに紹介するダヴィデも、まさにその一人。「僕は人の名前や顔を忘れてしまっても、はっきりと時計の種類、状態、それにまつわる会話はすべて覚えているんだ」現在スイスに住み、ヴィンテージウォッチ界のキングといわれている彼は、今年で50歳になるという。時計を探すため、コレクターに会いに、常に世界中を飛び回っている。「彼の見解は絶対だ」「彼の知識はすばらしい」との評判から、ダヴィデは業界でコンサルタント、アドバイザーとしても大活躍している。

1966年、イタリアのレッジョエミリアに生まれた彼はれっきとしたイタリア人。幼い頃から宝石のビジネスをしていた父親について、イタリア国内はもとより、ヨーロッパ、アメリカなどをまわっていた。同業者やクライアントのやり取りなど、父親の仕事を見ることで、若いダヴィデもビジネスというものがどんなものか、少しずつ

ダヴィデは、DAVIDE PARMEGIANIが選ぶ100点という本を季刊で出版。ウェブではすべてフリーでチェックできる。

左／'50s VACHERON & CONSTANTIN OROROSA AUTOMATICO 中／'60s VACHERON & CONSTANTIN BATMAN ORO BIANCO 右／'50s VACHERON & CONSTANTIN ORO GIALLO ANSE A RAGNO

2015年、ダヴィデはイタリアの時計雑誌OMの表紙を飾った。この本はヴィンテージウォッチだけでなく、新しい時計とジュエリーとライフスタイルを取り上げる。

左／'70s ROLEX 6265 CRONOGRAPH DAYTONA
中／'60s ROLEX 6238 CRONOGRAPH MULTISCALE
右／'70s ROLEX 6239 CRONOGRAPH すべてスチールケース。

ダヴィデがこの日身につけていたのは'50s BREGUET CRONOGRAPH ACCIAIO。トリプルカレンダー付きの珍しいクロノグラフであった。

左／'40s ROLEX OYSTER ACCIAIO QUADRANTE CALIFORNIA　右／'50 ROLEX 4500 CRONOGRAPH MONOBLOC CASE TWO REGISTERS

時計、クルマ関係の書籍、アートが溢れるダヴィデの書斎。右のアクリルの中は腕時計を一面にちりばめたアートとなっている。

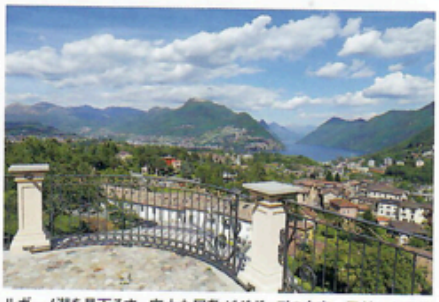
クルマと時計の書籍満載の自宅

分かるようになっていったという。

ただ、父親の扱っている「宝石」はどうも性に合わず、彼は小さい頃から「時計」が好きだった。なんと8歳頃には時計のコレクターになっていたというから、彼にとって「時計ビジネス」は天から与えられたものだったのだろう。

20歳を過ぎたころ。彼は1987年からヴィンテージウォッチを扱い始め、それから3年間古い時計を探す旅に奔走した。その頃、世界ではまだ古い腕時計の市場が確立されていなかったが、父親が扱っていた宝石ビジネスのノウハウがとても役立ったということだ。そのノウハウにダヴィデ風の味を加え、彼らしい時計ビジネスのスタイルを作ったのだ。

1989年、アメリカへ買い付けに行った際、ダヴィデに転機が訪れる。その頃のアメリカは時計ブーム。といっても当時の富裕層は新しい時計を追いかけており、古い時計は下取りに出され、市場にはヴィンテージウォッチが溢れていたのだ。用意したお金は2万ドルだったが、もっと買い付けたいダヴィデに、とあるアメリカ人バイヤーが、なんと担保なしで20万ドル相当の商品を譲ってくれたのだそうだ。



ルガーノ湖を見下ろす、広大な屋敷がダヴィデの自宅。屋外にも現代アートが飾られ、ダヴィデらしいスタイル。

彼には相手を信頼させてしまうオーラがあるのだろう。「この男は何かを持っている。彼の将来のためにここで手を差し伸べなければ……」という気持ちにさせてしまったのかもしれない。ダヴィデは大柄でとっても人懐こい顔をしている。が、時計の話になると、急に目が真剣になり、ボタンを一つ押したら沢山の情報が飛び出してくる。そんな印象である。

1930年代のレースカーや、ダヴィデが最初に購入したフェラーリ・デイトナやテスタロッサなどのモデルカーがいたるところにレイアウトされている。

'50年代のBERKEL。ハムやサラミを切るのに使うカッターで、イタリアではアンティーク市によく売りにだされているものである。

アートもダヴィデ流のセレクト

ステンレスでコーディネイトされたモダンなキッチン。ジャックラッセルテリアの愛犬の名はジャック。これだけ広ければパーティーを開くのも余裕。

キッチンの現代アート。これはパンで作った月であろうか。アートのセレクトにもセンスを感じる。ヴィンテージ一辺倒ではないバランス感覚も見習いたい。

ミニカーのように並べられたガレージ

ガレージに収まるクルマは左から
'67 FERRARI 275 GTB4
'73 FERRARI DAYTONA SPYDER
'69 LAMBORGHINI MIURA
'63 FERRARI 250 GT LUSSO
「アップルグリーンのミウラ、最高でしょ?」
とはダヴィデ。

FERRARI PARKING ONLY
SHELL
SHELL
SHELL
TI·206 354

'88 PORSCHE 959。ミニ、フェラーリ、ポルシェと様々なラインナップだが、どのクルマもどこかダヴィデらしい。

古いクルマを走らせる楽しみ

当時はまだ、ヴィンテージウォッチが安い値段で買えた時期でその頃のイタリアでは古い腕時計の市場が動き始めた頃だった。持ち帰った時計はすぐにクライアントの手に渡り、ここから彼の「VINTAGE時計ビジネス」人生は動き始めたのである。

新品を良しとするアメリカ市場には古い腕時計が溢れており、アメリカに何度も足を運んでは腕時計を探し回った。徐々に彼のまわりにはクライアントが集まり、なんと1990年代は1年で1000個もの時計を売ったというからその勢いは想像がつく。

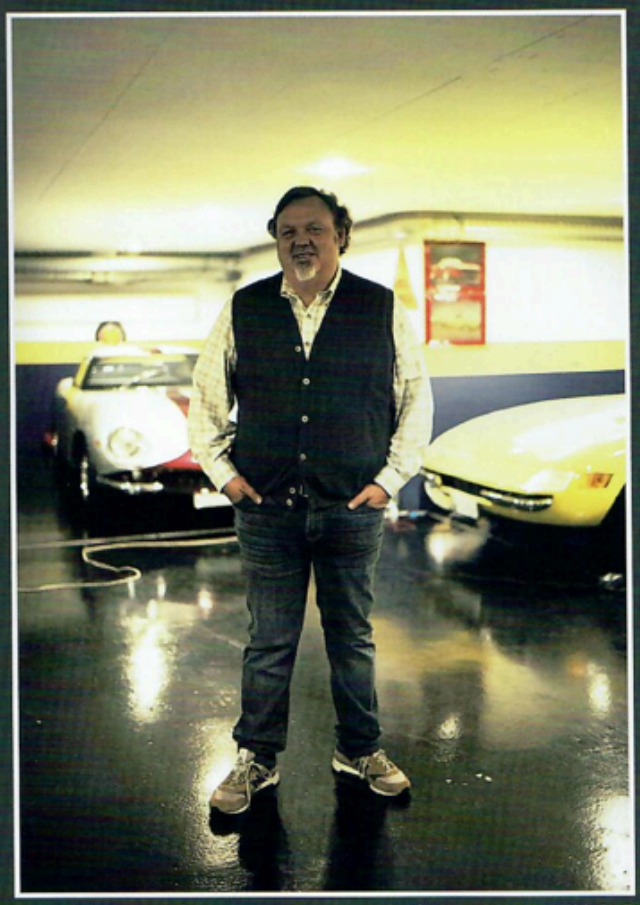
1990年にはミラノのVIA DELL 'ORSOに「PASSA IL TEMPO」という小さいショップを構えた。この店は1999年まで続き、そのあとはミラノの高級ブランド界隈、VIA BORGO SPESSOに店を移転。「HORA」という名前で2013年まで続けたのであった。

ショップを持っていると1日に沢山のお客様が入ってくる。その中には真剣に時計を探している人、なんとなくフラっと入ってくる人、時間潰しに入ってくる人、といろいろなタイプがいる。すぐにビジネスに直接つながることはないかもしれないが、お客様と直接話すことにより、市場の傾向も感じるし、とにかく人との出会いがあり勉強になったと彼はいう。

2012年のミッレミリアにALFA ROMEO 6c 1750 GSでダヴィデがエントリーしたときの写真。ミッレミリアは毎年出場している。

2010年が過ぎる頃、世界の経済状況も変わって来た。高級嗜好品を扱っていると、世界の経済状況もビジネスに影響する。ダヴィデはイタリアからスイスに移住を決意する。現在は生活の拠点をスイスのルガーノ市（ミラノから約1時間）に移し、街の中央、VIA NASSAに小さな店を構えている。ショップとしての仕事、そしてプライヴェートのアドヴァイザー、コンサルタントとして世界中のコレクターを相手に奔走しているという。今ではオークション会社もヴィンテージウォッチの評価をダヴィデに依頼してくるのだそうだ。

この業界で働く秘訣は？と質問



アルプスの山々をドライブするにはもってこいのクルマたち。奥の275 GTB4はアメリカでレストアされたものを購入。

'50年代のSUNOCOフューエルポンプ。アメリカで腕時計を買い付けていた経緯もあり、アメリカンヴィンテージも大好き。

フュエルポンプ、ジュークボックスも似合う

こちらは'60年代のジュークボックス。すべては紹介できないが、ガレージにはハーレーなども並んでいて、アメリカ的なところもある。

ガレージの脇にある部屋にも、クルマ関係の書籍やミニカーにあふれる。ただ、本物がすぐそこには並んでいるのだが……。

中でも好きなクルマは356

してみると「先ずは情熱が第一。ビジネスの根源はここから始まります。そして言葉、世界が相手なので、言葉は重要な鍵だと思います。あとはクライアントと直接話すこと、自分の目で時計を見て交渉することが大切。ということは常に旅をしていなければなりませんよね。旅が気軽にできることも重要で、最後は記憶力があることでしょうか」

ダヴィデと話をしていると、商品名、年代、特徴、その他の情報がすべて頭の中に入っていて、どんな問いにもすぐに応対してくれることに驚いてしまう。

「時計の価値は性能、保存状態はもちろんのこと、その時計が持つ、ストーリーも重要になってきます。今に至るまでのストーリーがあることで、その時計が持つ世界観が広がって行くんですね」とヴィンテージウォッチの魅力を話してくれた。

'58 PORSCHE 356カレラGS。ポルシェファミリーがオーダーしたアルミニウムボディを纏ったスペシャルモデルということで、このクルマが1番のお気に入り。ドライブしていても軽いし速いし楽しいということ。奥は、'71 MINIクーパーS。

広大なリビングはモダンかつクラシックな雰囲気で奥がテラスとなっている。コーヒーを飲みながら、時計、クルマの話が続く。

ガレージのクルマは、どれもエンジンがかかるように充電されている。この日は撮影のためにコードをすべてよけてくれた。

FERRARI 250 GTOのモデルカーと、PORSCHE 906などルマンを戦ったヒストリックマシンのジオラマコーナー。

ガレージの中で唯一PAGANI Huayraが現代のクルマ。最新だが、クラシックなディテールが気に入ってるということ。

ゴールドの色合いが、いかにも当時らしい'63 FERRARI 250 GT LUSSOの美しいリアビュー。'60年代のフェラーリは近年価格が急騰している。

手前は'83 FERRARI BB 512 インジェクション、奥はFERRARI 250 PF coupe。このほかにもロールスなどなど古いクルマたちが収まる。

最新のスーパーカーも好みで

今まで2万個もの時計を扱ったというダヴィデ。今、難しいのは「時計を探すこと」だと言う。「コレクターは何が欲しいか、明確な要望がある。その要望にどれだけ応えられるかが、僕たちプロの仕事。だから時計に関しては沢山のアンテナを常に張りめぐらせていますね」

そして、時計の他にホビーは？と聞くと、クルマが大好きなのだそうだ。ガレージには何台ものスーパーカーが収納されているが、1番はじめに手に入れたのはフェラーリ・デイトナで、90年代の初頭のことだったという。「僕は50～70年代のGTカーが好きなんだ。当時はまだ古いクルマも手頃な価格で買えたんです。時計と同じように」

「ミッレミリア」にも4回出場しているというダヴィデ。「勿論今年も出場するよ」といつもの笑顔で答えてくれた。